

長野県北部地震から1か月後の状況

新潟県 老人クラブ連合会

1. 新潟県老連の取り組み

- 3/17 救援拠金の取り組みについて、市町村老連へ通知
- 3/18 「長野県北部地震」被災地である十日町市（旧 松代町・旧 松之山町）、津南町を大野会長と事務局で訪問。 別紙 1
- 3/30 評議員会・理事会において、東日本大震災の拠金の呼びかけ。
関谷評議員（津南町老連会長）より、津南町の被災状況を報告あり。
両会議終了後、正副会長と女性文化部会委員（理事・評議員の女性6名）に残ってもらい、震災の対応（プロジェクト委員会と元気袋作成）について相談
- 4/5 元気袋の作成について依頼通知
- 4/13 市町村老連事務局職員対象の「23年度県老連事業説明会」にて「救援拠金」と「元気袋」と「支援プロジェクト立ち上げ」について説明
- 4/26 東日本大震災プロジェクト委員会（開催予定）

2. 被災地の状況

① 被害状況

別紙 2 「新潟県地震災害対策本部 HP」ほかのとおり ※4/19 現在

避難所 十日町市 4/12 全て閉鎖

津南町 4/18 全て閉鎖

②老連の状況

③老人クラブの状況

○十日町市

別紙 1 の末尾に 4/21 追記

○津南町 = 震源地の長野県栄村の「隣町」

津南町老連事務局・談

「3/23 未だに水が出ない地区があったり、家屋が全壊（倒壊は免れたが）、半壊と、赤紙（危険）黄紙（注意）を貼られた家が多数あり。

当連合会の単老会長の家屋も赤紙貼付で避難生活を余儀なくされ、空家に仮住まいされているようだ。」

「3/24 町老連会長と事務局で町内の各単位老人クラブの被災状況を確認、単老会長から聞きとりをした。」

※被災状況の写真2枚（津南町老連事務局 3/24 撮影）

長野県北部地震 (23.03.12 3:59 発生) に伴う、新潟県内の被害状況

平成23年3月18日 (金) 十日町市・津南町訪問

※当初は3月17日 (木) を予定していたが、大雪のため訪問を1日延期。

10:20 新潟県老連 大野会長と、事務局小松の2名、十日町市「道の駅 クロステン」到着。

待ち合わせていた櫻井弘志 副会長 (十日町市老連会長) の車で、
関谷今朝次 津南町老連会長宅へ。

11:00 関谷会長宅到着

会長宅は、被災なし。

関谷「信濃川の対岸地域 (外丸《とまる》地区=JR津南駅付近) と、
震災発生地 (長野県栄村) との県境の上郷《かみごう》地区が
被害が大きい」

13:00 十日町市でも被害の大きかった 松代《まつだい》・松之山地区へ。
引き続き櫻井会長の車で移動。

十日町→川西→ ここで山越え (トンネル) →松代・松之山へ。

松代地区は松之山へ向かう途中、車窓で見る。

櫻井会長「前日 (3/17) の降雪 (1晩で20センチ) で、被害の様子は
隠れてしまっている。」

13:00 事務局のある 十日町市社協 松之山支所へ。

アポなしだったので、担当者 (老連雇用・非常勤) 不在。

社協職員が応対。事務室内、電気つかず。

社協職員「町内の体育館などに避難しているが、日中は自宅へ帰って
整理をしている。危険度判定で赤紙・黄紙で『危ない』
のだけれども、老人クラブの会員さん (高齢者) たちは
自宅が心配だから、帰ってしまう。」

13:20 松之山 から 山越え (トンネル)

(前記のとおり、前日の降雪で被害状況は隠れてしまっていたが、)
櫻井会長「山並みは、雪が溶けての雪崩ではなく、地震の揺れによる雪崩。雪の塊がゴロゴロと転がっている。」

路面は国道・県道のため除雪が整い無雪だが、両側は3メートル以上の雪の壁。その中に、地震と雪(雪崩)で押しつぶされた家屋あり。2階のカベが壊れ、布団が外に出ていた。

もう一度、津南町をかすめて、十日町市街地へ。

14:20 十日町市老連事務局へ。

保坂局長応対。

櫻井会長が保坂局長に、今日の松之山の様子を説明。

15:00 クロステンへ戻り、1日案内していただいた櫻井会長と別れ、帰路へ。

◎4月21日 十日町市老連 保坂局長から聞き取り

「田畑や、家屋の基礎がどうなっているかは、まだまだ雪があるため、溶けてみないとわからないのが現状。」

市老連役員の状況の一例

市老連理事(松代地区選出の女性)は、山あいの自宅から町の中心に避難していた。
市老連副会長(松之山地区老連会長)の自宅は赤紙。